6.3　操作性の向上

(1)　欲しい情報だけを選んで取得する

コンタクトセンターなどで使用されている IVR（Interactive Voice Response）方式で、欲しい情報を選択する形式にする。これにより、希望の多かった個室内の多くの項目について案内ガイダンスを収容することができ、また、使用者は必要な情報のみを選択して取得することができる。

(2)　自動読み取り機能

リーダがアンテナに近づいたらいつでも自動読み取りできる機能を搭載する。電子タグを探す手間が省け、電子タグの貼り付け位置のルールも緩やかにできることが利点である。

しかしここで検討すべきは、ボタンを押す操作が唯一利用者が案内システムを使用する意思の表示であり、使うつもりがないのにシステムが作動する仕組みは使う立場を見落としていないか、という視点である。

(3)　Bluetooth など無線でつなぐ

携帯電話とリーダを無線でつなぐ。現在は対応できる機種がない。

6.4　トイレの標準化の提案

トイレを取り巻く環境は実に様々である。同一の建物、一つの施設内でもそれぞれ違う。このような状況であるからこそ個室内の案内が極めて有効なのである。しかし視点を変えると、できる限りトイレ個室内の個々の器具や用具の形状や配置は標準化されていたらいいのではないか、という考えにも至るのである。現実的に困難であることは容易に推測されるが、標準化が叶えば個室案内は不要であるといった背反したものではなく、双方が相乗効果を発揮するものであると考える。